

【本堂寿一氏】

秋田城など、出羽・秋田にも胆沢城と同じような城郭がある。違いはあるか。

律令国家に倣い、支配か

【高橋学氏】

胆沢城は802年に造られた。一方、出羽側の私田柵はその前の年に造られている。造ったのは、胆沢城は坂上田村麻呂であり、私田柵は分らない。



秋田県史学研究会 高橋学氏

高橋 学氏

胆沢城はまっ平らな所にあり、私田柵はまっ平らだが独立した丘陵が二つあるところを囲むような形であり、ちょっと立地が違う。外側を囲っている区画施設は、胆沢城は真四角な土の塀で囲っていた。一方、私田柵は木の柵で囲っていて、楕円形。たった1年しか変わらないが、設計の思想が違う。隣接する大河川を考えると、胆沢城は北上川に隣接している。私田柵は、幅4.5mほどの川は流れているが、いわゆる大河川はない。これが大きな意味を持つのではないかと考えていた。

交易を考えた場合、当時は陸路と河川を使った交通。胆沢城は、間違いなく河川も陸路もどちらも使っていたのだらうと想定できる。私田柵は、陸路に特化した城柵と考えた場合、北方交易の面から私田柵の位置付けを考える大きなポイントになるのではないかと。これらの比較は、在庁官人安倍氏、清原氏を考

える上で重要ではないかと考えている。

四角形建物については、胆沢城では11棟ほど

パネルディスカッション要旨 II

出ているが、私田柵では一切見つかっていない。

鳥海柵でも、「五保」の墨書土器が出た場所の近くで四面廂建物が出てくるが、10世紀後半から11世紀前半。鳥海柵は9世紀後半から10世紀前半が使用された時期で、間が抜けて11世紀からまた使われている。この四面廂建物は間を埋める時期といことで、大きな意味があるのではないかと。

【本堂寿一氏】
秋田と岩手は昔中合わせであり、秋田を見ると岩手が分かる。鳥海柵を知って、そして秋田・清原の史跡を見て、さらに地元の鳥海柵を知るとい

うことが大事。

奥六郡で古墳を築いた人たちは、田村麻呂に手伝ったか、あるいは戦ったか。戦ってばかりいたのでは、次の東北にはつ

ながらない。手伝った人がいたと考えられる。徳島と斯波(志波)といふ3郡が置かれた段階。秋田や北方などへつながるこの3郡の機能は、大きな力を持っていたと

【高橋信雄氏】
胆沢城が造られた翌年



花巻市 高橋

高橋信雄氏

には志波城が造られるが、一気に北上川流域に律令国家が広がったわけではないようだ。北上川中流域が律令国家に収まるのは、811年になっ

て和我(和賀)と蕨縫(和賀)と斯波(志波)といふ3郡が置かれた段階。秋田や北方などへつながるこの3郡の機能は、大きな力を持っていたと

思う。そうすると、志波城を

洪水のために廃止したというのではなく、むしろ意図的に廃止して徳丹城に移した。しかし、その徳丹城を50年ほどで廃止している。

徳丹城のすそをほの遺跡から、廂のついた非常に大きい建物跡が出てくる。徳丹城を造る時に協力した古墳群の人たちが、徳丹城が機能しなくなった後、すそをほの大きな建物を建て、あの辺一体を支配したのではないかと。

遠野でも古墳群が終わり告げたところの遺跡から、やはり廂の付いた9世紀から10世紀にかけての建物跡が出てくる。そういう集落がいくつもあって、それを掌握していたのが、安倍氏だと考えられる。安倍氏だと考えられないか。

いずれにしても、新興勢力ではなく、律令国家の力が弱まった段階で、律令国家と付き合いがあった昔ながらの人たちが、律令国家に倣った形で支配し始めたのではないかと考えている。

金ヶ崎の国指定史跡 鳥海柵を知る

— 2014 シンポジウムより —



- ▽コーディネーター
本堂寿一氏 (元北上市博物館長)
- ▽パネリスト
大平 聡氏 (宮城学院女子大教授)
高橋信雄氏 (花巻市博物館長)
高橋 学氏 (秋田県埋蔵文化財センター主任文化財専門員兼班長)